

富山県にて三歳児健康診査視覚検査に視能訓練士が参加するまで

富樫 純子

かみいち総合病院 | 視能訓練士

健診業務委員の富樫と申します。平成2年度から三歳児健康診査（三歳児健診）に視覚検査が全国導入され、私の住んでいる上市では、保健師による問診と看護師によるランドルト環を用いた視力検査を行っていました。私は、三歳児健診に視能訓練士が参画することにより適切に検査を実施することができ、精密検査率の向上、視力検査不可能児の減少に繋がると聞いておりましたので、上市町保健センターの保健師に視能訓練士として従事したい旨を申し出ました。

後日、保健センターより、「視能訓練士」について知りたいと連絡があり、視能訓練士の業務内容だけでなく、子供の視力発達、斜視、弱視、両眼視機能などについて、説明しました。そして、視力検査の方法のみではなく、問診の内容が意味することやその重要性についても説明しました。また、眼位・眼球運動検査、立体視検査、スキアでの屈折検査を実際に見てもらい、斜視や不同視弱視などを早期に発見するためには、視力検査だけでなく、他の検査も補助的検査として必要であることを理解していただくよう努めました。

三歳児健診に視覚検査が導入された当初は、自治体と視能訓練士間での契約書がありませんでした。このため、担当保健師の方と契約書を作成することから始めました。また、三歳児健診に携わる他職種の医療従事者の方に視能訓練士を理解していただくために、必ず健診後のカンファレンスに出席して、視覚検査の結果と検査時の子供の様子などを伝えるようにしました。視覚検査に視能訓練士が参加するようになってから、精密検査率が向上し、要精密検査とした児が、眼科

において斜視、不同視弱視などの診断をうけ、適切な治療を受けることができるようになりました。これらの積み重ねにより、三歳児健診に従事する他職種のスタッフからの信頼を得ることができました。

また、地元のケーブルテレビでは、保健センターからのインフォメーションの時間が設けられており、保健師による子供の病気などの説明企画がありました。この企画の一つとして視能訓練士が子供の視力の発達、斜視・弱視について説明し、三歳児健康診査における視覚検査の重要性を伝える機会もできました。

平成9年から三歳児健診が市町村に移譲され、あらたに、射水市、滑川市、立山町の保健センターからも視能訓練士に視覚検査実施依頼がありました。この依頼を受け、該当地域の視能訓練士に健診の参画協力を得て、現在は5名で健診業務に従事しています。また、各地域の視能訓練士間で健診実施状況について意見交換を行いながら、地域勉強会で「三歳児視覚検査の現状について」発表しました。これらの活動により、今年度からは、各市町村の保健センターに屈折検査機器としてスポットビジョンスクリーナーの導入が決定しています。

今後は、これまでの経験を生かし、健診業務委員として「三歳児健診（視覚検査）従事者向け研修会」の企画運営に携わり、各都道府県にてより多くの視能訓練士が積極的に三歳児健診視覚検査に参画できるよう努めたいと思います。